豊作の手始めは苗づくりから！

生産者の相談に応じる営農指導員

巡回前日に行われた事前講習会で認識共有

4月21日から水稲育苗ハウス現地巡回指導が始まり、営農指導員らは各地区に別れて、県山本地域振興局農業振興普及課が発行する「あぜ道～稲作管理情報～」を集まった生産者に手渡しながら、育苗ハウス内の床土や苗の状態、温度管理等について事細かく確認しました。

巡回指導の前日に行われた事前研修会では県山本地域振興局農業振興普及課から「いもち病の発生は、育苗施設からの発病・感染苗の本田への持ち込みが主な要因。育苗施設内および近隣稲わら・籾殻を撤去し適正な手指消毒を行った上で、育苗期いもち防除と本田の葉いもち防除を確実に行うことを指導して下さい。」と営農指導員らに呼びかけました。

研修翌日から行われた水稲育苗ハウスの巡回では営農指導員の齊藤係長が、水稲育苗ハウスに入室し、備え付けてある室温計を確認した後、新型コロナウイルス感染拡大防止のため装着していたマスクを取り外しハウス内のカビの匂いを確認。

齊藤係長は「ハウス内の空気がこもっていると カビが発生することがある。育苗ハウス内の換気面を開放し、空気の流れを作ってあげること、適度な室温を保つことが健苗育成のポイント」と話し、無人であった育苗ハウスにアドバイスを記した手紙をおいていました。

米出荷契約を交わす生産者とＪＡ職員

令和3年産米もたくさんの出荷お待ちしております！

4月16日から、令和3年産米の出荷契約受付が開始されました。

今年度の計画契約数量を23万6千俵（60kg）と定め、農家組合員へ全量出荷契約を呼びかけました。

担当職員は各地区集会所や家々を巡回して、出荷契約数量・出荷契約金、カントリーエレベーターの利用有無などを聞き取りながら、出荷契約を行いました。

出荷契約のため集会所に訪れた生産者は「出荷契約に毎年訪れると、春作業がいよいよ始まったなあと実感する。大豊作を目指し、契約数量以上に出荷出来るように頑張ります。」と意気込みを見せてくれました。

販売課、各地区営農センターでは随時受付しております。詳細は販売課（☎55－0778）までお問い合わせください。

第2号は郷土の誇り！「白神ねぎ」を紹介

発行された第2号「Sanaburi（さなぶり）」

昨年4月に創刊号を発行し、今回で2号目となる地域コミュニティー情報誌「Sanaburi（さなぶり）」が、発行されました。

第2号では、令和2年度に過去最高販売額を達成した「白神ねぎ」を特集。

地域農業とJAの応援団を増やすことを目的に、1万1580部を発行し、4月9日には新聞折り込みで管内広域へ配布したほか、各事業所窓口や、直売所などへ設置しております。

発行担当部署の藤嶋企画管理課長は「今年度20億円販売必達を目標とする「白神ねぎ」を特集したことで、地元の特産品をもっと身近に感じてもらい、地域が一丸となって、「白神ねぎ」とそれを栽培する生産者を応援するムード作りの一助になってくれることに期待したい。」と話します。

蟹座（6・22～7・22） 上昇運。滞っていたことも動きだし一息つけます。下旬からは自分のやりたいことを優先してOK。音楽鑑賞にツキ

水稲播種作業に励む職員

出来秋に見る、満面の笑顔のためにがんばりました！

育苗ハウス内綺麗に敷き詰められる育苗箱

能代営農センターと藤里営農センターの育苗施設では担当職員が手分けをして、薬剤の準備や苗箱の移動、種もみ補充など汗を流しながら、段取りよく播種作業を進めこの時期ならではの活気を生んでいました。

高齢化や人手不足により播種作業が出来なくなった生産者や、播種の機械を持たない生産者などから事前に受付けた育苗箱およそ4万2千枚分を育苗し、5月の大型連休明けから各生産者へ供給を開始しました。

播種作業は全自動播種機で行い、土を敷いた苗箱に、3月に発芽を促す浸種作業を終えた種もみをまき、その上に再び土をかぶせます。

小山能代営農センター長補佐は「出来秋の大豊作をみんな笑顔で迎えるために、水稲の栽培管理と自身の体調管理に努めてもらい、出来秋に農業倉庫へ皆さんが大豊作で満面の笑顔で出荷してくれる日を楽しみに待ちたい。」と話します。

利用広がる営農資材ＷＥＢ注文組合員専用サイト

使って便利、使ってお得、営農資材WEB注文絶好調！

昨年9月15日から運用を開始した、「営農資材ＷＥＢ注文組合員専用サイト」を利用した営農資材のネット注文が利用者から好評を得ています。

組合員がいつでもパソコンやスマートフォンで注文出来る利便性と、老若男女、誰でも簡単操作できる手軽さが支持されたと担当部署である経済課では分析しています。

昨年9月から12月末の期間に例年通り、令和3年度に使用する肥料・農薬の予約注文を紙の注文書と同サイトを併用して受け付けたところ、予約注文した約960経営体の35％に相当する約350経営体が同サイトを利用してくれました。

丑沢経済課長は「注文サイトの利便性などが組合員個々へ浸透するまで時間がかかると思っており、当初は100経営体ぐらいがサイト注文を利用してくれるものと見込んでいたが、見込みを大幅に超える実績となり嬉しい限り。パソコンやスマートフォンがあれば24時間いつでも、どこからでも気が付いたときに注文出来る利便性が組合員に支持されたことが要因と思う。」と上々のスタートに安堵の表情を浮かべていました。

経済課では4月1日から今必要な肥料・農薬を購入する「当用注文」の運用も開始。

「当用注文」におけるサイト利用状況も好調で、土日を問わず一日あたり10件ほどのサイト注文が入っているようです。

サイトの利用状況を調べると、早朝や営業時間が終了した17時以降や休業日など利用日時は様々で、同サイトの「いつでも、どこでも、気が付いた時に」のコンセプト通りの使用状況に、同サイトの利便性が徐々に認知されてきました。

経済課では、午前10時までの注文に対して、当日中の配達、午前10時以降の注文は翌営業日に配達する体制強化を図るとともに、組合員への積極的な訪問活動を行い、農業者の所得増大と、生産コスト低減に向けた提案や、相談活動を展開するとともに、注文サイトを幅広い年代層に普及させていくこととしています。

双子座（5・21～6・21） やる気が新しい扉を開きます。興味があることはそのままにせず調べてみましょう。新しい品種へのチャレンジが吉